

さいがい 災害から身を守るために

災害は、地震や津波だけではありません。ここでは、安全な行動のために必要な視点を確かめましょう。また、地震以外の災害時の行動についても確かめてみましょう。

1 自然のサインを見のがすな

(1) 雨が強くふってきたら

水害から身を守るには、日頃の備えと落ち着いた行動が大切です。がけくずれや土石流などの災害が発生するときには、右の図のようなことがあると言われています。また、ふだんは流れがゆるやかな川も急に増水することがあります。



イラスト：仲里カズヒロ

(2) 雷の音が聞こえてきたら



車の中や建物から出る



高い木や建物からはなれる



姿勢を低くする

(3) 竜巻が起きそうになったら（黒雲・雷鳴・冷たい風・大つぶの雨）



外では… ビルなどのじょうぶな建物の中や物かげにかがんで避難しましょう。
建物の中では… 窓やカーテンをしめ、窓際からはなれ、布団などをかぶって身をかがめます。

2 火事を見つけたら

(1) 早く知らせる

- ◆ 近くにいる人、近所の人に大声で！（声が出ないときは、なべをたたくなどの大きな音で知らせます。）
- ◆ あわてず正確に119番通報をする。（第4章3「応急手当の方法と救急車の呼び方」を確認しよう。）



姿勢を低くし、けむりをすわない。



にげたら、もどらない。

(2) 早く消す

- ◆ 初期消火が決め手（絶対に無理をしない。）

(3) 早くにげる

- ◆ 避難はすばやく安全に。

3 防災マップを作ってみよう

自分たちが住んでいる地域を、災害を減らす（減災）という視点でまち探検をしてみましょう。そして、探検で気付いたことを地図にまとめ、防災マップを作成してみましょう。



防災マップ

【防災マップ作成までの活動例】

- ① 自然災害について知る。
- ② 災害が発生した時に必要なことを知る。
 - ・ 避難所の位置と複数の避難ルート、防火設備等を調べる。
- ③ 活動①②から、まち探検のチェックポイントを整理する。
- ④ まち探検に出かける。
 - ・ カメラでポイントとなる場所や物を撮影する。
 - ・ 自宅から避難所までのきょりや時間を確かめる。
- ⑤ 歩いてチェックしたことを地図に書きこんで防災マップを完成させる。

防災マップは、いろいろな人（家族・地域の人）が作成に関わることで、より活用されるものになっていきます。防災マップにまとめた情報を、積極的に家族や地域の方々に発信していきましょう。